

ステイトメント

-ものの彷徨いの物語-

形を決める遷移について考える。一般に私たちが手を加えてあげれば、ものや記号は形が変わってくれます。しかし私たちが手を加えていないその間にも、ものや記号自身は自らの体裁を求めて宙を彷徨っていると思うのです。

私たちが能動的にものや記号にルール（関係性）を見出す時、広がりを考えます。それが何で構成されているか、それが何を構成できるか、質の関係性の広がりがまず一つ。

ものがあることで事後に何が起こるか、以前に何があったのか、時間的な関係性のレンジがまた一つ。

そのような幾つかの広がりから、私たちはルール（関係性）を選び取ります。そして恣意的に関係の磁場を作ることで、時間と意味が生まれてくれます。

この、時間を対象に意識できる前後の発生を、私はフィクションだと捉えています。ものともとのルール（関係性）のみにはまだ時間が伴いません。関係性が関係を持つことでやっと時間が現れてくれます。

これらの関係性を求めての彷徨いを、私たちだけがやっているわけではないはずで、もの達が如何にして自らの関係の発生のために彷徨っているのか？その一端を描写することが、私の制作の大きな目的です。

-人の知覚の形とユーモア-

ものの彷徨いと同時に、人がものを選択する際に伴う厳密さを考えています。俗に環境というものは多面的です。とある課題の原因を一つずつ抽出しようとする事は、現実的な自然さから離れると考えます。私たちは複合的に同時に、課題へと取り組むことが自然だと信じています。

幾つもの課題へと思考を巡らす際に、人はどこまで思考のレンジを区別しているのか。メタとベタの色分けをどこまで区別して、人の判断は進行していくのか？人の判断の彷徨いとものの彷徨いが交わるその領域で行われるやり取りを、記述して行くことも私の大きな目的の一つです。